

図書館だより

武雄高校図書館 図書指導部
令和5年1月16日発行



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。
慌ただしく短い3学期がスタートしました。大学入学共通テストを終えた3年生は、私大入試・国公立大学二次試験に向けてラストスパートです。

図書館では、二次対策・小論文対策の本を集めていますので、ぜひ活用してください。また、進路が決まった人は、今が読書のチャンスです。
今なら読める！今しか読めない！新しい話題の本もたくさんあります。
いろいろなジャンルに挑戦してください。



Last



先生方のオススメの本の紹介

今月の先生方のオススメの本です。これらの2冊は、図書館に置いてありますので、気になる本がありましたら、図書館に足を運んでください。

① (音楽科)

『ちょっとだけ』瀧村有子【作】/鈴木永子【絵】(福音館書店)



《おすすめポイント!》

大人になるまでに、そして大人になってからも、人生の中で何度か読んでほしい絵本です。
子どもの気持ち・親の気持ちに寄り添える温かい作品です。

② (数学科)

『三体』劉慈欣【著】(早川書房)



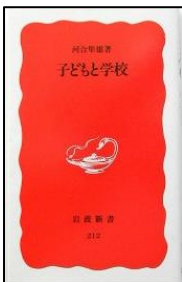
《おすすめポイント!》

“自分たちが若かった頃はテレビゲーム(ましてや、スマホもない時代)がなく、理系の我々の楽しみはSF小説や推理小説が娯楽の1つでした。最近、SF小説は読まなくなりましたが、「三体」という小説がSF界に衝撃を与えているということを知り、読んでみましたが、想像を遙かに超えており、びっくり驚きました。

今のSFって、こんなことになっていたのかあ。完結まで重厚な文庫本を5冊、読むことになります。個人的にはくだいなと思うところもありましたが、それ以上に作者の発想には衝撃を受けました。Netflixでもドラマ化が決定となりました。読んでみて下さい。他にも恩田陸の「夜のピクニック」、最近、映画で話題になったフランク・ハーバードの「デューン 砂の惑星」もお勧めです。

◆大学入試の出典の紹介◆

宮崎国際大学(教育学部) 令和3年度 前期試験《評論》の出典



『子どもと学校』河合 隼雄【著】

子どもたちの生きる社会環境が激変する今日、「教育」のあり方が、いつにも増して問われている。臨床心理学者として、子どもの心の世界に長年接してきた著者が、帰国子女や不登校児の言葉に耳をかたむけ、日本型教育への疑問、心や性の教育の必要性を盛り込みながら、子どもと学校の新しい関係を創造する道を語る。

山口大学(経済学部) 後期試験《評論》の出典



『子どもの貧困<2> 解決策を考える』阿部 彩【著】

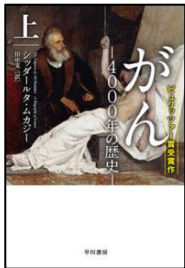
2013年、「子どもの貧困対策法」が成立した。
教育、医療、保育、生活。政策課題が多々あるなかで、プライオリティは何か？現金給付、現物(サービス)給付、それぞれの利点と欠点は？国内外の貧困研究のこれまでの知見と洞察を総動員して、政策の優先順位と子どもの貧困指標の考え方を整理する。社会政策論入門としても最適な一冊。

『がん—4000年の歴史〈上〉』
ムカジー、シッダールタ【著】/田中文【訳】

ピュリツター賞&ガーディアン賞受賞！

紀元前から現代まで、4000年にわたって人々を苦しめてきた「がん」。

古代エジプトの医師イムホテプが「治療法はない」と述べたその腫瘍を、医聖ヒポクラテスは「カルキнос（「カニ」）」と名づけ、19世紀の外科医は「あらゆる病の皇帝」と怖れた。患者、医師たちの苦闘のドラマを通して、謎めいた病魔の真の姿を浮かびあがらせ、ピュリツター賞ほか各賞を総なめにした傑作ノンフィクション。



『はなとゆめ』 冲方 丁【著】

28歳の清少納言は、帝の妃である17歳の中宮定子様に仕え始めた。華やかな宮中の雰囲気になじめずいたが、定子様に導かれ、その才能を開花させていく。機転をもって知識を披露し、清少納言はやがて、宮中での存在感を強める。しかし幸福なときは長くは続かず、権力を掌握せんとする藤原道長と定子様の政争に巻き込まれて…。清少納言の心ふるわす生涯を描く、珠玉の歴史小説！



『教場X—刑事指導官・風間公親』長岡 弘樹【著】

風間に警察官人生最大の転機が訪れるシリーズ第五弾。

伝説の刑事指導官・風間公親の右目が光を失った。かつて逮捕した男に逆恨みされ、千枚通しで襲撃されたのだ。

その後、T県内では連続刺傷事件が起きているが、犯人は逃亡中だ。復帰した風間は、現場で厳しい指導を続ける。



新刊図書案内



『甲の薬は乙の毒—薬剤師・毒島花織の名推理』

塔山 郁【著】

生活に役立つ薬と健康の知識も満載の薬剤師ミステリー第2弾！



ホテルマンの爽太は、薬剤師の毒島(ぶすじま)さんに思いを寄せている。彼女は卓越した薬の知識を持ち、薬にまつわる不思議な出来事をいつも即座に解決してくれる。きちんと管理しているはずの認知症の薬が、一種類だけなくなってしまうのはなぜ？ 筋トレに目覚めた友達が抱える悩みとは？

『問い続ける力』 石川 善樹【著】

「自分で考えなさい」—誰もが一度は言われたことがある言葉だろう。でも、何をどう考えたらいいのか？そこで、様々な分野で突出している達人、9人のもとをたずねて聞いてみた。「どんなことを考えますか？」時代、社会、文化、アート、性、経済、人間とAI…、問い続け、考える達人たちとの縦横無尽の対話は深く、広く、「Think Different」のヒントにあふれている。



『責任と判断』 ハンナ・アレント【著】ジェローム・コーン【編】

中山 元【訳】

ユダヤ人である自らの体験を通して全体主義を分析し、20世紀の道徳思想の伝統がいかにか破壊されたかをたどる。

一方、人間の責任の意味と判断の能力について考察し、考える能力の喪失により生まれる“凡庸な悪”を明らかにする。判断の基準が失われた現代こそ、アレントを読むときだ。



0分類(読書法・図書)

『斎藤孝先生が選ぶ-高校生からの読書大全』(齋藤 孝)
『著作権を制する者は授業を制す！著作権ハンドブック-先生、勝手にコピーしちゃダメ』(宮武久佳/大塚 大)

1分類(評論集・心理学)

『語りえぬものを語る』(野矢 茂樹)
『13歳からのアート思考-「自分だけの答え」が見つかる』(末永幸歩【著】/佐宗邦威【解説】)

3分類(教育)

『性の問題行動をもつ子どものためのワークブック-発達障害・知的障害のある児童・青年の理解と支援』(宮口幸治/川上ちひろ)

4分類(動物学・医学)

『海獣学者、クジラを解剖する。一海の哺乳類の死体が教えてくれること』(田島木綿子)
『意識はいつ生まれるのか—脳は謎に挑む統合情報理論』(マルチェロ・マッサイミーニ/ジュリオ・トノーニ【著】)
『死の川とたたかう—イタイイタイ病を追って(新版)』(八田 清信)
『人間はどこまで耐えられるのか』(フランセス・アッシュクロフト【著】/矢羽野 薫【訳】)

6分類(観光事業)

『新・観光立国論-イギリス人アナリストが提言する21世紀の「所得倍増計画」』(デービット・アトキンソン)

9分類(小説)

『タスキメシー五輪』(額賀 濤)『つみびと』(山田 詠美)
『星をつなぐ手-桜風堂ものがたり(2)』(村山 早紀)
『あくてえ』(山下 紘加)『N/A』(年森 瑛)
『一九八四年(新訳版)』(ジョージ・オーウェル)
『ウクライナ戦争』(小泉 悠) **新書**
『民族とネーション-ナショナリズムという難問』(塩川伸明)